

第1回 旧弘道館保存活用計画策定委員会 主な意見と対応

	主な意見	対応
①計画全般に関する内容		
計画について	計画で議論するのは、方針までか、ハード整備の部分か、観光客対策などのソフト面のことまで含めるのか、方向性が見えない。	<ul style="list-style-type: none"> 計画のイメージの整理 計画の構成毎の内容整理 ⇒資料2で整理
	重要文化財の建造物は史跡の構成要素でもあり、密接に関わって分けられないものであるため、重要文化財の保存活用計画を別途作ることを前提の上で、特別史跡の管理計画の中でもある程度議論した方がよい。	<ul style="list-style-type: none"> 本計画で議論を行う方向で進める。 重要文化財と特別史跡の保存活用計画の関係性を整理 ⇒資料2で整理
	重要文化財の建造物は、史跡に関連するものであり、重要文化財としての価値も当然触れなければならない。別途検討ではなく、本計画の中でも議論が必要と考える。	⇒資料2で整理
計画の構成(内容)について	今後30年を見越すと、保全を考える上でも、長期的な利活用を考えていく必要があるため、「整備・活用」についてももう少し力を入れる必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 文化庁のマネジメント報告書の内容により再整理 ⇒資料2で整理
	文化庁で、史跡等のマネジメントに向けて保存活用計画の構成の考え方を示したので、参照して今日の議論も踏まえて構成を再検討していただきたい。	
	事務局より説明された計画の構成案については、本日指摘のあったソフト面も少し加えながら膨らませていただきたい。	
②計画詳細に関する内容【保存】		
旧弘道館の本質的な価値	弘道館は精神構造、思想構造を空間的に配置したという独特の価値がある。今後、そのような検討できるように、様々な情報収集が必要。	<ul style="list-style-type: none"> 精神や思想、教育などの記述を追加して整理 ⇒参考資料3で整理
	基本的に現在重要文化財に指定されている建物は創設期のもので、戦後復元された孔子廟も建てられた当初の姿に復元している。弘道館の創設時は、神道と儒教が一体となっていたが、明治以降に変わり、現在では神社は宗教法人となり建物自体も新しくなっている。そうした全てが特別史跡となっているので、時代設定は難しく、大きな課題である	
	何時の時代の弘道館を目標に保存管理を行っていくのか、十分に議論する必要がある。弘道館の場合は現存するものの時代が様々であるので、一度整理する必要がある。	
	本質的な価値とは？	<ul style="list-style-type: none"> 史跡等の指定に値する枢要の価値(指定説明文) 【マネジメント報告書 H27.3 P27】

旧弘道館跡地	保存活用計画の中で、当初の弘道館の規模が 54,000 坪と言われてきた理由や、正しい面積を調査して明らかにする必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 文献の記載内容を確認し、重ね図等を作成し検討中 創建時敷地まで現状整理 ⇒参考資料3で整理
	旧弘道館の本来の敷地であった周辺の取扱いは難しいが、まずは、本来の敷地について歴史的な事実として整理していく必要がある。	
③計画詳細に関する内容【活用】		
ソフト面の検討の必要性	水戸学というものや弘道館で行われていた教育の内容等をもう少し広く知っていただくというソフト面の取組みも高めていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 保存管理の整理を先行した上で、ソフト面の取組詳細を検討する。 (次年度)
	学術的な研究調査により価値を把握することと、観光も含めたソフト的な部分は必ずセットになると思う。	
	保存管理はハード面だけでなくソフト面も同時に取組む必要があるため、ハード面とソフト面を同時に考えて一体感のある計画になると良い。	
	旧弘道館でどのような教育が行われていたか、水戸がどういう性格の藩であったかということ、文化財を通して伝えることで、水戸のファンになっていただき、維持管理に協力していただくようにする必要がある。	
	弘道館を通して、水戸や茨城県の魅力が市民、県民、県外の方にも発信できることを目指して保存活用していくということを考え、ソフト面についても議論していきたい。	
外国人来場者対策	外国人来場者については、東京のオリンピック・パラリンピック等の動向についても情報収集していただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度の外国人観光客数やICT技術、東京都の情報収集や社会実験などを行う。 (次年度)
復元整備	30年後のあり方を見据えて保存活用計画を考えると、建造物の復元も視野に入ってくるため、長期的な整備を見据えて発掘調査等を実施してはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> 調査履歴を整理し検討 ⇒参考資料3で整理
上位計画	観光面や、都市公園として位置づけ等の上位計画があると、役割を踏まえた議論が可能となる。	<ul style="list-style-type: none"> 計画の位置づけ（上位計画との関係）を整理 ⇒資料2で整理